

## 第32回

### 飛び石でつながる岩滑と植



新美南吉の命日「貝殻忌」を迎えた3月22日、矢勝川堤では、川の兩岸を結ぶ飛び石の完成披露式が執り行われました。

半田市と阿久比町の間を流れる矢勝川は、彼岸花の名所として全国的に有名になりましたが、下流の岩滑西橋（通称殿橋）と上流の弘法橋の間では、約1.3kmにわたって橋がありません。そのため、花見客も毎朝散歩をする地元の方も不便な思いをされてきました。そこで地元からの要望を受け、愛知県が平成27年から2年半をかけ、飛び石と河川敷に下りる階段の整備を進めてきたものが、このほど完成したのです。飛び石は岩滑西橋と弘法橋の間に作られ、「ごんの飛び石」と名付けられました。

飛び石が繋ぐのは、半田市岩滑地区と阿久比町植地区です。矢勝川を挟んで向き合う両地区は、過去には、水を巡って争うことがしばしばありました。

農村にとって水の確保は死活問

題です。昭和36年の愛知用水開通以前、弘法橋上流の矢勝川に「落ちの杖」という取水口があり、日が「落ちる」と開いて植側に水をとり、日が昇ると閉じて下流の両岸で分け合っていたそうです。互いにルールを決め、監視し合いながら貴重な水を管理していたのです。

水は足りなくても困りますが、大雨となれば、今度は排水に苦しむこととなります。特に川床が高い矢勝川では、周辺の田んぼから出た水を排水路から直接川に落とすことができず、導水管で川床の下を潜らせる「伏せ越し」が行われています。

南吉が生まれる2年前、明治44年の大雨では、岩滑側から植側への排水が滞り、岩滑側の田んぼが何日も水に浸かってしまいました。その後「伏せ越し」の管の太さを巡って、裁判沙汰（後田事件）になり、両地区に感情的なしこりを残しました。そんな岩滑と植を隔てる川だった矢勝川ですが、今では両岸に彼岸花が咲き、人が行き交うことで、両

地区を繋ぐ川へと変わってきています。平成27年には、両地区を跨いで活動するNPO法人「ごんのふるさとネットワーク」も発足しました。「ごんの飛び石」が両地区、さらには半田市と阿久比町を結ぶ象徴として親しまれることを願っています。



## アンケート

- Q1 今号でよかった内容や写真があれば教えてください。
- Q2 今号を読んだきっかけに行動したこと、または、したいことはありましたか。
- Q3 取り上げてほしい内容や企画、広報に関するご意見・ご感想などありましたらお聞かせください。

### 回答方法

住所、氏名、年齢、アンケートを書いて、ご送付ください。

### あて先

〒475-8666  
東洋町2-1 企画課  
Eメール  
kouhou@city.handa.lg.jp



**疲**れがたまっていたのか、最近体調を崩してしまい、非常に苦しい思いをしました。季節の変わり目で気温の変動が大きいので、みなさんも栄養、休養をしっかりと取って、健康にお過ごしください。

さて、表紙は雁宿公園の桜です。満開の時期に撮影しに行ったので、綺麗なピンク色に心が弾みました。雁宿公園は新しく整備されて、いろいろな遊具も設置されているので、ぜひ一度足を運んでみてください。

(K)

### 編集後記